



目黒の未来に、

無責任でありたくない!

かいでん 和弘

かずひろ

無所属 25歳

Vol. 3 ◆ 2019 年 2 月 17 日発行

Theme 高齢者福祉について

プロフィール

- 1993年 ● 11月23日生まれ (25歳)
- 2006年 ● 目黒区立原町小学校 卒業
- 2012年 ● 都立桜修館中等教育学校 卒業 (旧 都立大学附属高校)
- 2016年 ● 北海道大学 法学部 (政治学専攻) 卒業
- 2016年 ● 民間のコンサルティング会社 就職  
市区町村の調査・行政計画策定やPR業務に携わる。

特技・趣味 チェロ演奏、剣道 (2段)

好きなもの 野球観戦、水泳、読書、クラシック音楽、旅行、鉄道、歴史研究

こんな目黒をつくりたい (3つの方針)

- 方針1 若い世代も区政へ参画「目黒の未来は自分たちでつくろう」
- 方針2 子育て施策の充実「次の世代はみんな育てる」
- 方針3 ご高齢の方の活動場所の充実「手ごたえのある日々を、目黒区で」

こんにちは。未来志向の目黒区政を実現するため、無所属・最年少で活動中のかいでん 和弘です。今回は私の目指す3つの方針の中から、方針3の「高齢者福祉」についてまとめました。

我が家の“介護”

私は、90歳、86歳の祖父母と同居しています。ほぼ自立した日常生活を送っていますが、耳が遠く、認知症が進行しているため、外出は危険です。家の中でも転んだり、鍋の空焚きをしたり、危ないことがしばしば起こるため、介護の問題は決して他人事ではありません。

これから進む高齢化

日本全体で

- 2018年 4人に1人(27.7%)が65歳以上の高齢者。
- 2020年 女性の2人に1人が50歳以上に。
- 2024年 3人に1人が65歳以上の高齢者に。
- 2026年 高齢者の5人に1人が認知症患者に。
- 2042年 高齢者の人数がピークを迎える(4千万人)。
- 2045年 東京都民の3人に1人が高齢者に。

出典：河合雅司(2017)『未来の年表』現代新書

これから

目黒区でも

今後30年間(～2045年)で…

65～74歳	7,700人増加
75歳～	11,000人増加

急激な高齢化

今でさえ特別養護老人ホームが足りていない(数百人待ち)のに、今後1万9千人もご高齢の方が増えたら今の制度は破綻します。

施設での介護という考え方そのものを改める時期に差し掛かっています。

どうすべきか

目黒区では、特別養護老人ホームの入居待ちを解消するため、急ピッチで施設の整備を進めています。もちろん施設整備も大事ですが、今後、高齢者の人口が急激に増えていくことが見込まれています。このままでは、将来的に十分な数を用意できるとは思えません。

むしろ先のことを見すえて考えるのであれば、

- ・介護を受けずに生活できるための介護予防
- ・要介護者を行政・地域・家庭で支える仕組みづくり

この2点に力を入れるべきと考えます。



# かいでん 和弘

かすひろ

無所属 25歳

Theme 高齢者福祉について

◆ 2019年 2月 17日発行

## 私は目指します。

個別の政策の詳細は、次号以降の資料またはブログで記載していきます。

### 1 社会貢献で支え合う目黒

#### ① ポイント付きボランティア制度の普及・拡大

60歳以上の方に、地域貢献のためにボランティア（見守りや清掃、あるいはサークルの指導など特技を生かした取り組み）をしていただくことを推奨していきます。無償ではなく、区内の商店街などで使えるポイントを付与することで、高齢者当人にとっては健康増進と節約に、地域にとっても活性化につながる取り組みにしていきます。

すでに目黒区でも「めぐろシニアいきいきポイント」事業として実施していますが、登録者数はわずか150名ほど。ボランティア内容の充実、商品券の使い道の充実などで、より一層の普及・拡大に努め、地域での支え合い活動を促進します。

#### ② シルバー人材センターの普及支援

これからの少子高齢化・財政難の時代、行政のサービスに頼りきりではなく、地域で支え合える土台を今のうちから作っていかなくてはなりません。シルバー人材センターの活躍の場を拡大（学習支援活動など）することで、「定年後も手ごたえのある日々」の実現と「地域で支え合う」仕組みづくりに努めます。

### 2 趣味でつながる目黒

#### ① 趣味を通じたつながり・助け合いの推進

共通の趣味を持つ仲間が同じ地域にいれば、介護・子育てなど困ったときの頼り先として心強いものです。フットサルでも、登山でも、音楽でも、郷土研究でも、分野は何であれ地域内で活動するサークルの設置・広報・運営を支援し、「好き」を共有する仲間同士で支え合う地域づくりを目指します。

#### ② 老人いこいの家の改革

元気なお年寄りにとって、「老人」扱いはうれしいものではありません。祖母も「老人いこいの家」の名称を嫌がって、一度も利用しませんでした。いこいの家から「老人」の名前を外し、多世代が気軽に交流できる空間に変えていくことで、知識・歴史の伝承、認知症予防、強い地域のつながりづくりを進めます。

### 3 身体を動かしてずっと健康な目黒

#### ① 体操や運動で介護予防

せっかくの住区センターも平日の日中はあまり利用者がいません。高齢者向けのアクティビティや健康体操などの目的で使用する場合には低料金で貸し出すなど、住区センターを有効活用した介護予防を提言します。

#### ② 区営スポーツ施設の料金見直し

年齢問わず、プールなどの区営運動施設を継続して利用する人向けに、割安なパスポートや回数券を導入し、区として運動を奨励することで、区民の方の健康づくりにつなげていきます。



後援会

かいでん応援団

〒152-0013 東京都目黒区南1-1-11

☎ 090-3145-1156

✉ kazukaiden@gmail.com

HP・フェイスブックにて、活動記録を公開中です。

ラインからもお問い合わせ可能です。

かいでん和弘

🔍 検索

https://www.kazu-kaiden.com

